
片想

香菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
片想

【Nコード】
N8170A

【作者名】
香菜

【あらすじ】
2年間片想いしていた亮に振られた陽菜。新しい恋にむけて出発しようとするが……。恋愛、友情……。複雑な関係の行方は。。

prologue

「ごめん。。陽菜のことは友達としか見れない」

私、永倉 陽菜

高校2年生の普通の女の子

たった今2年間片想いしていた亮くんには振られた

亮くんに出会ったのは中学3年生の頃。同じクラスになって優しく
てかっこいい亮くんをどんどん好きになってった

すごく、すごく好きだった

高校は別々になったけど、ほとんど毎日メールをしていた
周りの男の子なんてカボチャか人参に見えちゃうくらい

あたしの等身大の恋だった―…

でも

涙は不思議と出ない

自分の中でこうなることは分かっていたから。

いつだって亮くんはバリアを張ってた。まるで私との間に壁を作る
みたいに――

「陽菜みたいな友達がいて俺は幸せだよ（＾Ｏ＾）」

亮くんの口グセだったね

その度に私がどれだけ傷ついてたか知ってた？

「――っ……ひっ……」

涙なんて出ないと思ってたのに
涙止まんないよ――

prologue*亮*

「亮くんにとって私は友達？？私は亮くんのこと友達なんて思えない。。
ずっと好きでした」

俺は田邊 亮。

坂之上高校に通う高2の普通の男だ。

たった今、ずっと仲のいい女友達だと思ってた陽菜から突然の告白メール：

陽菜と出会ったのは中学3年の頃。陽菜は美人で滅多に笑わないということで有名だった。5月の席替えでたまたま隣になったのがきっかけで仲良くなっていた。滅多に笑わないなんて嘘だと思うくらい陽菜は明るかった。

いつも俺と陽菜で馬鹿やって笑ってた気がする。

高校は離れたけどよくメールはしていた。

なんで……。。

俺にとって陽菜は大切な友達。

さっきだっていつもみたいに

「俺、陽菜みたいな友達がいて幸せだよ（＾Ｏ＾）」
ってメール送ったばっかなのに。。

陽菜は俺にとって大切な存在。でも恋愛感情をもったことは一度もない。

大切な大切な友達なんだ…。

「ごめん。。俺は陽菜のこと友達としか見れない」

——送信。

陽菜、ごめんな。

俺、陽菜のこと無意識のうちに傷つけてたのかな……

でも俺にとって陽菜はまちで大切な友達なんだよ。。

ブーツブーツ……

——メール1件受信 陽菜——

「うん（ノ＼、＊）

そっかぁ——！！いきなりゴメンね。。びっくりしたでしょ（笑）

今日のことは忘れてツツ（＾Ｏ＾）

これから私と友達でいてくれる？？」

陽菜…

どんな気持ちでこのメール打ったんだろう。。

ごめんな……

「あたり前だろ!! これから陽菜は大切な友達だよ(＾Ｏ＾)
陽菜の気持ちに答えられなくてごめんな。陽菜の気持ち、嬉しかっ
たよ(＊ーー) ありがとな!!」

「ううん。亮くんは悪くないじゃん(＾Ｏ＾) 謝らないで!!
じゃあ明日も学校だしもう寝るねー☆また今度ね→おやすみなさ
あい」

「おう!!!!!! じゃーな!」

また今度…。
いつもだったらまた明日なのにな。。

俺、おかしいよ。

陽菜の気持ちには答えられないのに陽菜が離れていきそうで嫌だ。。

男女の友情なんて言葉成立するのだろうか――…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8170a/>

片想

2010年11月24日05時16分発行